

出初め式で決意新た 防犯、交通安全指導隊



隊長の号令で一斉に警笛を吹く交通安全指導隊員



防犯指導隊の出初め式で布施市長から服装点検を受ける隊員

平成25年の防犯指導隊、交通安全指導隊の出初め式が1月12日、中田総合体育館でそれぞれ行われました。

防犯指導隊の出初め式には須藤健治隊長（中田町）ら隊員、警察関係者、市職員約100人が出席しました。隊員らは体育館内に整列し、布施孝尚市長、田口政信市議会議長、

平成25年の防犯指導隊、交通安全指導隊の出初め式が1月12日、中田総合体育館でそれぞれ行われました。

防犯指導隊の出初め式には須藤健治隊長（中田町）ら隊員、警察関係者、市職員約100人が出席しました。隊員らは体育館内に整列し、布施孝尚市長、田口政信市議会議長、

内海裕之佐沼警察署長、齊藤久徳登米警察署長らから服装点検を受けました。

交通安全指導隊の出初め式では、鈴木隆彦隊長（登米町）ら隊員、関係職員約100人が出席。隊長の号令、市長らの服装点検を受け、新しい年の交通事故防止活動に向けて士気を高めていきました。

市では、生物の多様性の保全・再生および持続可能な利用を図るため「生物多様性とめ戦略」を策定することにし、第1回検討委員会を1月8日に市役所南方庁舎で開催しました。国の生物多様性基本法に基づき取り組みで、同戦略策定に着手したのは県内で初めてとなります。

検討委員会の委員は、研究者や市内外の企業、団体の関係者14人です。委員は、布施孝尚市長から委嘱状の交付を受け、委員長には東北大学大学院生命科学研究所の中静透教授が選ばれました。検討委員会は来年2月頃までに素案を作成し、平成26年度末の策定を目指します。



布施市長（右から2人目）から委嘱状の交付を受ける検討委員

県内初、策定に着手 「生物多様性とめ戦略」

市では、美しい水と緑のもとで野生動植物と共生できる社会の実現に向け「人と野生動植物の共生を考えるつどい」を11月17日に開催しました。

全国モーターボート競走施行者協議会の助成事業を活用。会場となった米山町の平筒沼ふれあい公園「ユーユー館」には、市環境市民会議委

野生動植物との共生を 米山でシンポジウム

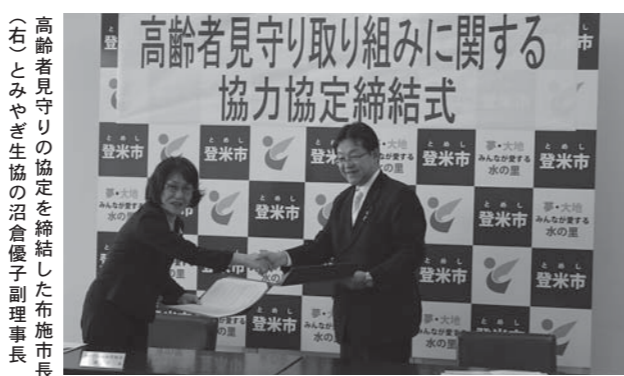
米山でシンポジウム

員や地元コミュニティの関係者ら約60人が出席しました。

シンポジウムでは、環境省佐渡自然保護官事務所の長田啓氏が「農村自然再生と地域おこし」と題して基調講演。その後、東北大学大学院農学部伊藤房雄教授をコーディネーターにパネルディスカッションが行われました。



野生動植物との共生と地域おこしについて話し合われたパネルディスカッション



高齢者見守りの協定を締結した布施市長（右）とみやぎ生協の沼倉優子副理事長

市では、市内高齢者の見守り活動を強化するため、みやぎ生活協同組合と見守り活動に関する協定を結びました。

協定の内容は、生協担当者が商品配達で高齢者宅を訪れて異変などを感じた場合、市に連絡するというものです。

見守りの対象となるのは65歳以上の一人暮らし、または65

高齢者の見守り、強化

みやぎ生協と協定締結

市では、市内高齢者の見守り活動を強化するため、みやぎ生活協同組合と見守り活動に関する協定を結びました。

協定の内容は、生協担当者が商品配達で高齢者宅を訪れて異変などを感じた場合、市に連絡するというものです。

見守りの対象となるのは65歳以上の高齢者のみで構成される世帯。みやぎ生協が取り扱う高齢者世帯は、市内で約1100世帯になります。

1月7日に市役所で協定を締結した布施孝尚市長は「暮らしに根付いた取り組みで、高齢者の皆さんの安全安心につながる。大変うれしく思う」と、感謝の言葉を述べました。

28種類の「はっと」に舌鼓 大賞に「海鮮漁師はっと」



登米市の一大イベントに成長した「日本一はっとフェスティバル」。市内外から大勢の人たちが訪れました

登米市の郷土料理「はっと」が勢ぞろい。「第9回日本一はっとフェスティバル」が12月2日に開催され、会場となった迫町の中江中央公園に

開会セレモニーを盛り上げた新田婦人会（迫町）による「はっと踊り」

は大勢の人が集まりました。会場には28種類の「はっと」を提供するブースが設けられ、1杯200円から300円で販売。訪れた人たちはお目当ての「はっと」に舌鼓を打っていました。

はっとを食べた来場者の投票で決まる「はっと大賞」は「海鮮漁師はっと」（南三陸町・松野や）。2位は「まいたけ油麩はっと」（みやぎ東和開発公社）、3位は「特製鴨なんカレーはっと」（大崎市・チームののだや）でした。